

玉 神社だより じゃり

第29号

編集・発行

長崎県神社庁 教化部

令和3年版

長崎市上西山町19-3

TEL.095-827-5689

<http://nagasaki-jinjacho.or.jp/>

新型コロナウイルス感染症はその感染力の高さから、瞬く間に世界中に拡がり、多くの国では未だ収束のめどがたっていない。

我が国では、医療従事者などの昼夜を問わない対応によって一時は拡大を抑え込みましたが、現在は断続的に各地で新規感染者が出ている状況です。

世界各国でワクチンや治療薬の開発が進められていますが、それらが効果を発揮するのは、

まだ少し先のことになりそうです。

今は国民ひとりひとりが、こまめな

手洗いと咳エチケットを心掛け、いわゆる「三密」を避ける行動をとることなどの感染防止策を徹底することが最も有効でしょう。予防策を講じて医療崩壊を防ぐことはもちろん、落ち込んだ経済活動を活性化し、コロナ禍以前の水準まで戻すことも欠かせません。

我が国では古来、和を重んじる心が大切にされてきました。「和を以て貴

和を重んじる心

まらなideしよ。

「和の心」で国民が一致団結して新型コロナウイルスに打ち勝ち、早期に経済を再生する事ができればこれ程素晴らしいことはないでしょう。

先人たちが築き上げてきた美しい国柄と国民性に誇りをもち、大切にしていきたいことが求められています。

(令和二年九月記)

しとなす」は推古天皇十二年(六〇四)に成立した「十七条の憲法」に記された言葉で、明治政府の基本方針である「五箇条の御誓文」に活かされ、また「敬神生活の綱領」にも和の心の重要性が謳われています。

個人よりも和を重んじる心でもって「新しい生活様式」に沿った行動を心掛ければ、感染拡大は食い止められるでしょうが、公共の利益を損なうことへの意識が低く、自身も感染するようなこととなれば、事態は一向に収





変わる日常、変わらない祈り

〃神に見放された〃

絶望に打ちひしがれそうになったとき、将来に希望がもてなくなったとき、人はそう表現する。

古来、僕たちの祖先は自分たちの力ではどうにもならない、人知を超えた出来事が起こると「神の御業」として畏れ敬った。

どれだけ科学技術が進歩しようとも、自然災害や疫病は、幾度となく人類の前に立ちはだかった。そのたびに先人たちは英知を結集し、困難を乗り越えてきたのだ。

同時に自然や、そこに宿る神々に対する畏敬の念を深め、生かされているということを実感しただろう。

やがて、その心は「祭り」を成し、各地にある神社は、地域の守り神として丁寧に祀られてきた。

人々は、春になると一年の豊作を、夏には海の安全を祈り、秋の恵みに感謝を捧げ、新しい年を迎えると厳しい冬を乗り越えた喜びを分かち合った。

僕がこの世に生を受けるずっと前から神社はそこにあり、ご先祖さまの時代から神さまはいつも見守ってくれている。

そしてこれからも、神社はそこにあり続け、僕の子どもや孫たちが日々笑って暮らせるように見守ってくれるだろう。

現在を積み重ねた先に未来は存在する。だからこそ、今この瞬間を大切に、何気ない日常もしっかりと歩みたい。

僕は今日も神さまに手を合わせる。

〃いつもありがとうございます〃

〃今日もよろしくお祈りします〃

ミニコラム

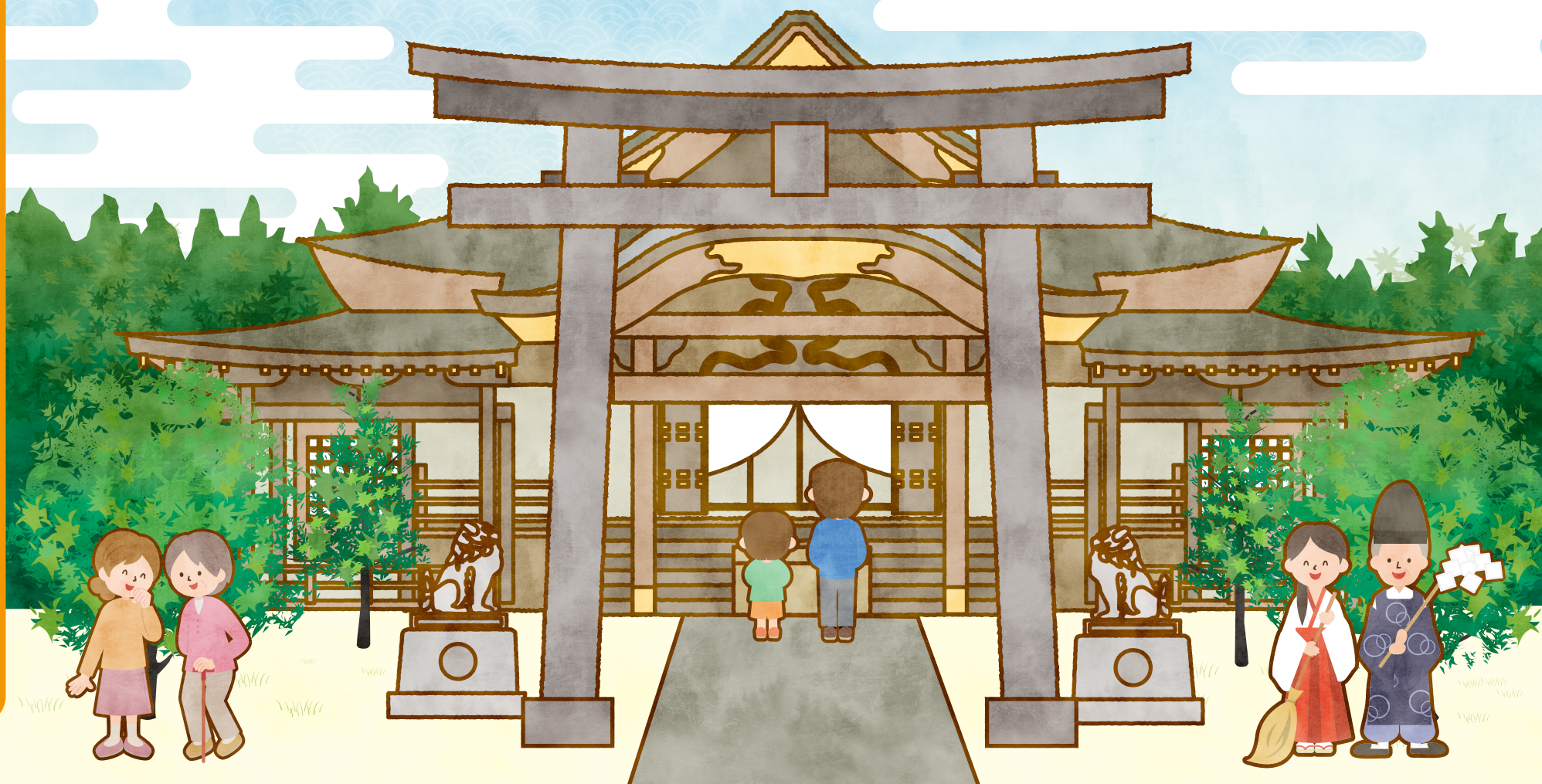
【神を祀るころ】

今から1300年前に完成した日本最古の正史『日本書紀』には、第10代崇神天皇の時代に疫病が流行ったことが記されています。

国民の半数以上が犠牲となったことにひどく心を痛められた天皇は、国中の神々に鎮静を祈願しました。そして、ご神意によって大物主神を特に篤く祀るとともに、あらためて八百万の神をお祀りしたところ、ようやく疫病は収まり、国も豊かさを取り戻しました。

崇神天皇の御心は現代にも受け継がれ、宮中(皇居)をはじめ全国の神社でも日々、神々に対する祈りが捧げられています。

※大物主神…大神神社(奈良県桜井市)のご祭神で、国造りの神



ご造営ニュース

總社神社

鎮座地：平戸市田平町山内免一六四番地

御祭神：天之御中主神 ほか十七柱

電話：〇九五〇―五七―三〇六六



平戸市田平町山内免（永田区）に鎮座する「總社神社」は、後堀河天皇（一二二―一三三）の頃に造営したものと推定され、祭神は天之御中主神ほか十七柱です。

神殿は、松浦家第十世・峯五郎源披・馴親子によって行われた里田原開拓（一一九〇―一二二〇年代）のため伐採された樟を用い、京都御所の紫宸殿を模した造りとなっており、その広さは四・五メートルの正方形です。創建以来屋根の葺き替え等を行ったほかは改築されたことはなく、約八二〇年前の鎌倉時代の建物であると考えられ、きわめて由緒の深い神社です。

しかしながら、長年にわたり風雨にさらされ、特に神殿の老朽化が進み、やむなく神殿改築・拜殿改修工事を行うことと相成りました。

建設委員会を中心に計画し、創建当時の樟の柱を残すこととし、氏子に五年の分割負担金と地域有志の特別ご寄進を賜り、平成三十一年二月起工、令和元年九月竣工祭を無事執り行いました。

郷土愛の強い皆様を支えられ一大事業を成し遂げられたことに感謝いたします。

総事業費：三千万円

参拝のいろは その④

今回の「参拝のいろは」は「おみくじ」についてです。

初詣などで神社にお参りされると「おみくじ」を引くことがあると思います。

「おみくじ」は漢字では「御神籤」と書き「吉凶を占う神様のご神意」が記された籤（くじ）の事を言います。

よく「おみくじは結んで帰った方が良いのか？」「持ち帰った方が良いのか？」との質問をお受けします。

それぞれの神社で解釈が異なり、一概にどちらが良いとは言えませんが、前述のとおり「神様のご神意が記されたもの」であるので、内容の良し悪しに関わらず持ち帰って大切に保管して、折に触れて読み返し、指針にしてみるのも良いでしょう。

そして保管しておいた「古いおみくじ」は、次の年に参拝した際に感謝を込めて神社に結ぶまたはお返しし、新しい一枚を授かりましょう。

神社によっては、樹木が痛むのを防ぐために「おみくじ」を木に結ぶことを遠慮いただいている場合もありますので、ご配慮をお願いします。

「おみくじ」の内容と照らし合わせながら、心豊かな生活を送られますことをお祈りいたします。

